

学 長 選 考 会 議 議 事 要 録

1. 日 時 平成21年6月12日(金) 16:05~17:13
2. 場 所 弘前大学事務局2階 特別会議室
3. 出席者 石戸谷, 岡井, 小田切, 松下, 石堂, 昆, 佐藤(三), 藁科, 加藤の各委員
欠席者 榎引, 佐藤(敬), 稲村の各委員
事務局陪席 江羅総務部長, 奈良岡総務課長, 齋藤総務課長補佐, 長澤総務・秘書G係長

4. 配付資料

資料 平成22年2月1日に任期が始まる次期学長に望む学長像, 学長の資質(案)

議長から, 前回会議(5月27日)の議事要録(案)について確認され, 異議なく了承された。

5. 審議事項

議題1 学長像, 学長の資質について

議長から, 前回までの議論を基に試案としてまとめた, 資料「平成22年2月1日に任期が始まる次期学長に望む学長像, 学長の資質(案)」をたたき台にして, 学長像, 学長の資質についてさらに議論したいとの発言があり, 案の説明後, 出席の各委員から下記のとおり意見があった。

次期学長の任務として第2期中期目標・中期計画を確実に実施するのは当然のことだが, 案文の4番はその内容を現在の時点で熟知している人に限定されると捉えられかねないため削除したほうがよい。

案文1番の説得能力や人間性という柔らかい表現もよいが, 学長に必要なのはリーダーシップという一言に集約されるのではないか。

優れたリーダーシップ, 卓越したリーダーシップといえる。

地方の新制大学として, 高校生が, この大学にはあの学長がいるから是非入学したいと考えるような学長であってほしい。

案文4番の第2期中期目標・中期計画を確実に実施できるというのは, 案文3番の弘前大学の将来構想を明確にして具体的方策を示すということの総括か。

別のものである。案文4番の中期目標・中期計画期間の6年間であっても国の政策が動いたりする訳で, 今までの議論では, 案文3のように学長に中期目標・中期計画の期間よりも長い目でみて, 弘前大学の将来像, 本学の進むべき方向を示してほしいということであった。

案文1番の人間性は周囲が判断すること。2番の多大な実績も周囲が判断することか。4番の中期目標・中期計画の確実な実施については現時点では分からないこと。では、3番の将来構想と方策について候補者が示すことになるのか。

どのようにして示してもらおうのかが次の問題になるだろう。文書を提出してもらおうとか、あるいは直接話を聞くとかを考えなければならない。

将来構想は、中期目標・中期計画と関連する。それを越える考え方の提示ということか。

現実には中期目標・中期計画については目の前の対応に追われている。3番の将来構想はもっと先の方向性の問題である。今も機能別分化等の課題はあるが。

長期とは10年くらいのスパンを想定してのビジョンか。

長期的視点というのは収斂点が必要である。第1期から第2期、第3期中期目標・中期計画期間と続く長期のビジョンである。

今までの議論で、将来構想にこだわっている部分があった。理念があれば、その他のことは後からついてくるものと思う。

これら学長の資質を、学長選考会議はどのようにチェックするのか。第2期中期目標・中期計画の実施についてはチェックできない。

チェックできなくとも、4番の中期目標・中期計画の確実な実施は、決められたことを実現していく力があるかを判断するための項目であった。

当然の前提としてであって、4番はあってよいと思うが。

4番の項目は他の資質と比してアンバランスと思う。

では、1番についてはリーダーシップを全面に出した書き方とし、4番の第2期中期目標・中期計画の確実な実施を削ることとする。案をまとめ委員各位の意見を求めたい。これら求める資質を判定する資料の書式は、2番の実績については一定の書式の文書でよいと思う。3番の将来構想も字数を制限するとか、あまり長文でなくともよいだろう。

実績の書類は教員の履歴書のようなものでよい。

書類はどの段階で提出してもらおうか、スケジュール案を作って諮ることとする。

7月中旬までに次回会議を開催し決定しなければならない。

資料は推薦者と候補者のどちらに求めるのかも決める必要がある。

これらの意見を基に、議長から、10人の推薦者に係る別に定める推薦理由書等の様式を全て揃え、次回会議で決めることとする。事前に様式のサンプル等をメールで委員各位へ送付し意見を伺いたいとの提案があり了承された。

議長から、次回の選考会議は、7月中旬を予定しているが、各委員の日程調整を行ったうえで決定したいとの発言があり、了承された。

以上